

# 強者の戦略

【ラテンアメリカに関する歴史はけっこう出題されますよ】

こんにちは、台風が近づいている中で執筆中、北林です。きっと大雨が降った後は涼しくなるんだろうなあと、想像している私です。急に涼しくなっても体調を崩したりしないでくださいね。

毎度告知をしていますが、9月から再開された「東大スパルタン」「京大スパルタン」で全国のライバル達とぜひ一緒に参加してください。研伸館の校内生は各校舎の窓口一般の方はホームページからお申込できます。

スパルトンのホームページ(東大も京大も医学部もこちらからです)

→ <http://spartan.kenshinkan.net>

さて課題となっている問題を確認しましょう。一橋の問題でした。

## 問題

19世紀初頭から第一次世界大戦に至る時期において、フランスとアメリカ合衆国はラテン・アメリカの歴史にいかなる状況を及ぼしたか、具体的に記せ(300字以内)

### 《ワンポイントアドバイス》

まず時期をはっきりさせたいと思います。

19世紀初頭から第一次世界大戦に至る、ということは、1801年～1914年ごろ、までを想定することができます。その期間を全力で考えましょう。

19世紀初頭、といえばヨーロッパではフランス革命が終わってナポレオン登場する時期です。そのころはすでにアメリカ合衆国は独立をしているし、ナポレオンは統領政府で力を持った時期。フランスの植民地だったハイチの独立は当然さっと思いつきますね。ハイチはフランス領で、フランス革命時の奴隷を解放する動きが影響してサン＝ドマングで反乱がおこったことから始まります。反乱の指導者だったのがトゥサン＝ルーヴェルチュールです。彼は独立を見る前に亡くなりますが、1804年にハイチは独立を果たします。もちろんこれに影響を与えたのは、合衆国の独立、そしてフランス革命などがあります。その他の中南米の独立もアメリカ独立革命やフランス革命の影響を大きくうけていますね。ナポレオンがイベリア半島を侵略したことも影響を与えることになります。

そしてその他ラテンアメリカ諸国の独立の多くはウィーン体制時に起こっていますが、それがわかればモンロー宣言も思い浮かびます。

# 強者の戦略

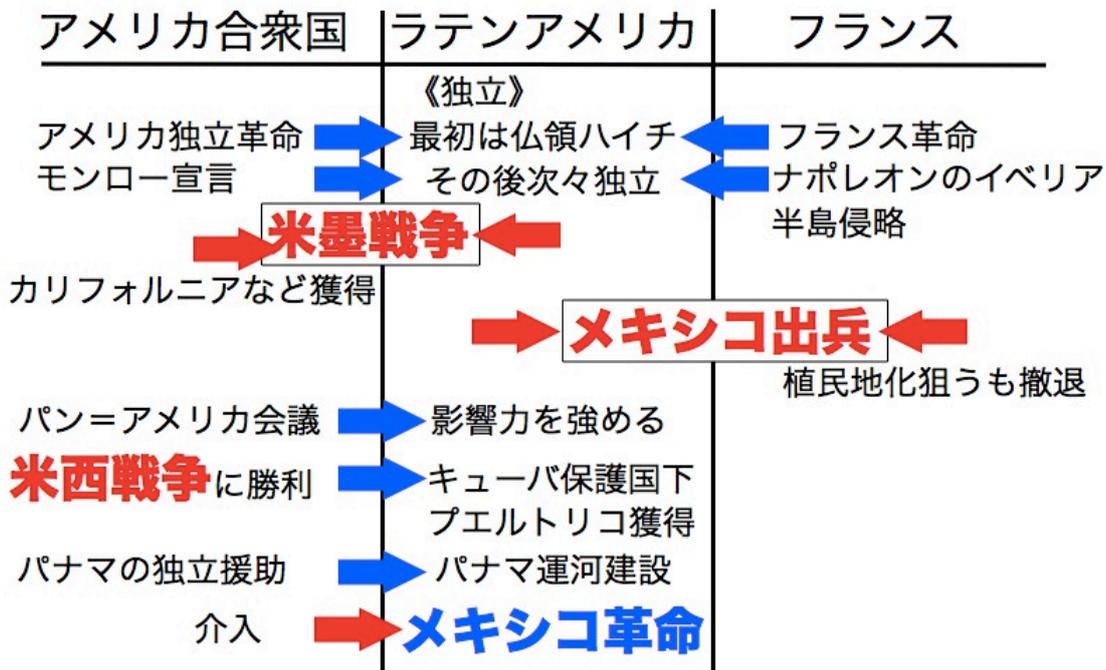
以下、アメリカがラテンアメリカ諸国に介入している内容を確認すると、

- 米墨(アメリカ=メキシコ)戦争 … アメリカはカリフォルニアなどを獲得しますね。
- メキシコ革命 … 倒されたディアス独裁政権は親米でした。
- 米西(アメリカ=スペイン)戦争 … キューバ独立をアメリカが支援したことがきっかけです
- パン=アメリカ会議など … 合衆国が指導的役割を果たしますね

フランスが関連している内容ならば、ナポレオン3世のメキシコ出兵などをいれることができるでしょう。

以下、京大スパルタンで使用した図なんですが、参考にしてみてください。こんな感じで試験会場で構成メモが作れるようになりたいですね。今回はひねりがある問題ではないので、知っているか知らないか、だけです。ただ、ラテンアメリカは盲点になりやすいところでもありますので、しっかり復習をしておきましょう。

19世紀初頭から第一次世界大戦に至る時期において、フランスとアメリカ合衆国はラテン・アメリカの歴史にいかなる状況を及ぼしたか、具体的に記せ(300字以内)



# 強者の戦略

《解答例》

ラテンアメリカではアメリカ独立やフランス革命の影響で、ハイチが独立し、その後ナポレオンのイベリア半島侵略もあり、スペイン領等でも独立が本格化した。アメリカはモンロー宣言を発してヨーロッパからの干渉に反対、独立を支持、その後米墨戦争で領土を獲得するなど西部開拓を促進した。19世紀後半、フランスは南北戦争のすきにメキシコ出兵を行うも敗退。アメリカは1889年にパン＝アメリカ会議を主催、影響力を強め、孤立主義を転換して海外進出を進めた。米西戦争に勝利するとプエルトリコなどを併合、パナマの独立を助けて運河地帯を租借、運河を完成させた。メキシコ革命ではディアスの独裁政権が倒されたが、以後も米英などの資本への従属が進んだ。(300字)